

【技術分類】 4 - 2 - 1 予防歯科 / 治療用器材 / 小窩裂溝填塞用器材

【技術名称】 4 - 2 - 1 - 1 小窩裂溝填塞用充填材料

【技術内容】

予防歯科において、う蝕が発生しやすい小窩裂溝を填塞してう蝕予防とう蝕進行抑制する際に使用する充填材である。

う蝕が発生しやすい部位として、(1)小窩裂溝（溝やくぼみ）、(2)隣接面（歯と歯の間）、(3)歯頸部（歯と歯肉の境目）の3ヶ所が挙げられる。多くのう蝕はこれらの部位より発生する。

小窩裂溝填塞は、う蝕が発生しやすい小窩裂溝を、一時的に接着性レジンあるいは接着性セメントで埋めることにより、う蝕が発生しやすい口腔環境から遮断し、う蝕を予防しようとする方法のことである。フィッシャーシーラントともいう。

小窩裂溝填塞は、乳臼歯小窩裂溝、幼若永久歯小窩裂溝、頬側面溝および上顎前歯口蓋側面を対象として、幼児期から小学生高学年までに処置することが適切である。

小窩裂溝填塞用充填材として(1)レジン系および(2)ガラスイオノマー系、それぞれに(I)化学重合型と(II)光重合型がある。レジン系は接着性に優れるが、冠水に弱く、ガラスイオノマー系はその逆に、冠水に強いが、接着性に劣るなど、それぞれ一長一短がある。また、う蝕予防を強化するために、フッ素徐放性があるものが開発されている。

【図】

図1 小窩裂溝填塞用充填材料



【出典】

図1： 表題：「フィッシャーシーラント フルオロシーラント」、関連箇所：「松風トップページ> 製品情報> 歯冠修復用合成樹脂> フィッシャーシーラント：フルオロシーラント> フィッシャーシーラント フルオロシーラント」、著者：株式会社松風、掲載場所：株式会社松風ホームページ、検索日：2006年12月13日、
アドレス：<http://www.shofu.co.jp/prd/04afile/2163.htm>

【参考資料】

刊行物名：「臨床歯科理工学」、発行年月日：2006年5月25日、編者名：宮崎 隆、中嶋 裕、河合達志、小田 豊、発行所：医歯薬出版株式会社、参考箇所：67-69 ページ